



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲注意

- 本体の吊込みを行う場合は、本体の丁番カップが縦枠の丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。本体の脱落の原因となります。
- 丁番カップは本体に指定の固定ねじで、ガタツキがないように固定してください。ねじの締め忘れ・緩みなどは本体の脱落の原因となります。

### ■取付け上のおお願い

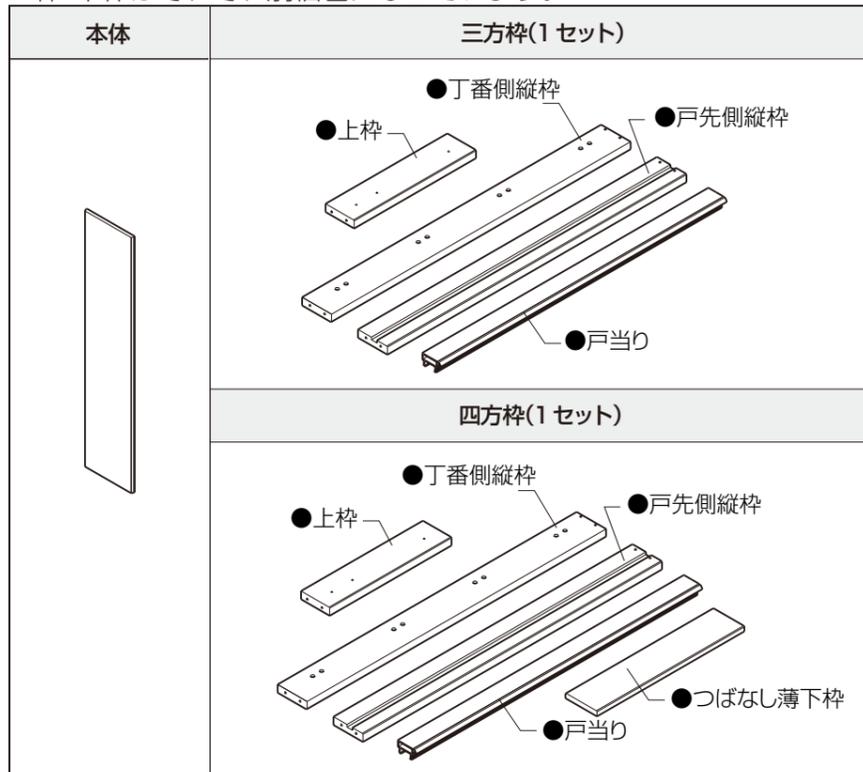
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締め付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締め付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、叩き込まないようにしてください。保持力低下の原因となります。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠の下地および、かい木には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 床材とツバ付薄沓ずりのすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車椅子などの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。ツバ材の取付けは、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
- 枠は倒れ、傾き、たいこ、つぶみ、ねじれがないように取付けてください。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 軽量鉄骨に直接取付ける場合は、同梱のねじでは取付けできません。現地にて鉄骨までかかる長さのねじを手配してください。
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着材が表面に付着したまま残ることがあります。
- 丁番3枚吊り、4枚吊りの本体は、最初に中間の丁番を取付け、次に端部の丁番を取付けてください。又、本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。
- 本体の把手に重量物をぶらさげないでください。把手が壊れ落下するおそれがあります。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

### ■本体保管上のおお願い

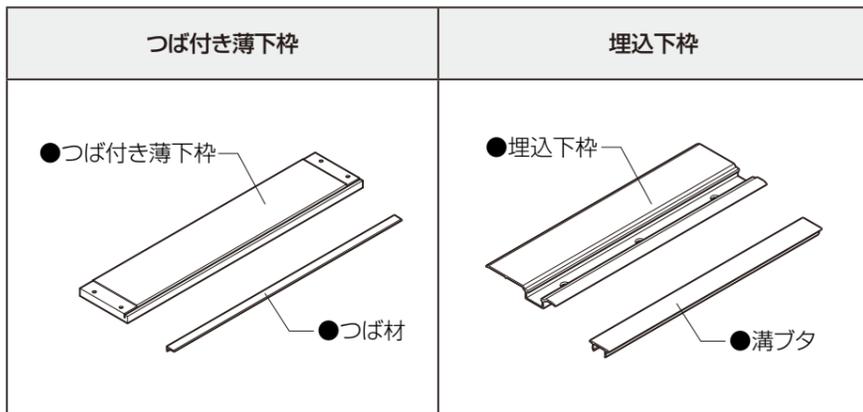
- 本体のソリ・ねじれ防止ため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
    - ・直射日光の当たる場所・昼夜などで温度差の激しい場所・湿気の多い場所
  - 本体を長時間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

## 各部の名称

※枠・本体はそれぞれ別梱包になっています。



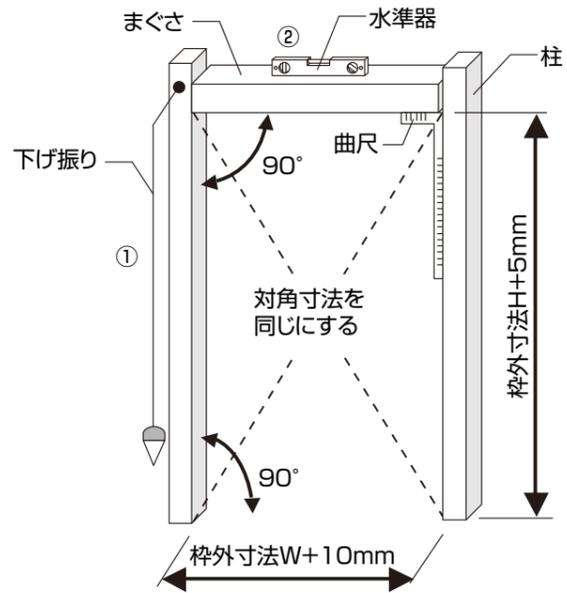
※下枠と三方枠は別梱包になっています。



## 開口部の作成

●開口部を作成します。

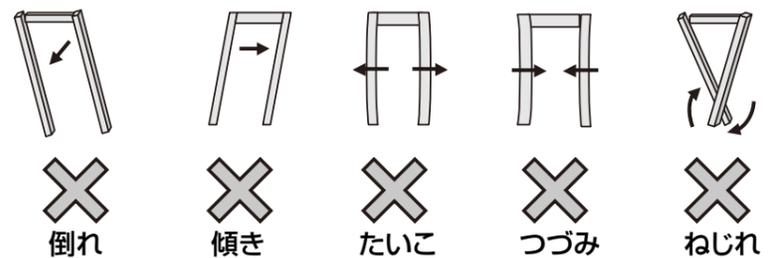
※開口部寸法は下記寸法で作成願います。



①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。

②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



## 部品セット一覧

### ■本体部品セット

部品名称	把手	把手取付けねじ トラス小ねじ M4×35	丁番カップ	保護材セット
呼称				
0420・0720	1	2	4	1

### ■枠部品セット

部品名称	皿小ねじ M4×50 (枠組立て用)	皿タッピンねじφ4×50 頭部シート色塗装 (上枠躯体取付け用)	キャップ用ねじ φ3×50	ねじキャップ	丁番座	開き戸ダンパー	開き戸ダンパー用 スペーサー	トラスタッピン ねじφ4×35 (開き戸ダンパー取付け用)
呼称								
	三方枠	四方枠						
0420	4	8	2	6	3	4	1	2
0720	4	8	3	6	3	4	2	4

### ■下枠部品セット

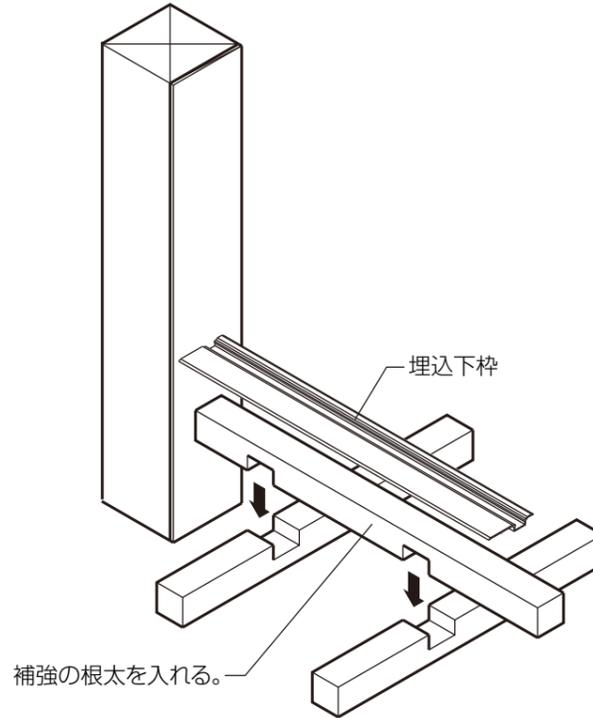
下枠種類	トラスタッピンねじ φ4×25 (薄下枠組立て用)	皿タッピンねじ φ3.5×20 (枠取付け用)	縦枠下部ピース (R/L)	皿タッピンねじ 1種φ4×20 (縦枠下部ピース 取付け用)
つば付き薄下枠				
埋込下枠	4	-	-	-
	-	3	2(R/L各1)	2

※戸当り・戸当り取付けねじは使用しません。

## 床の張り方

### 1 埋込下枠下地の確認

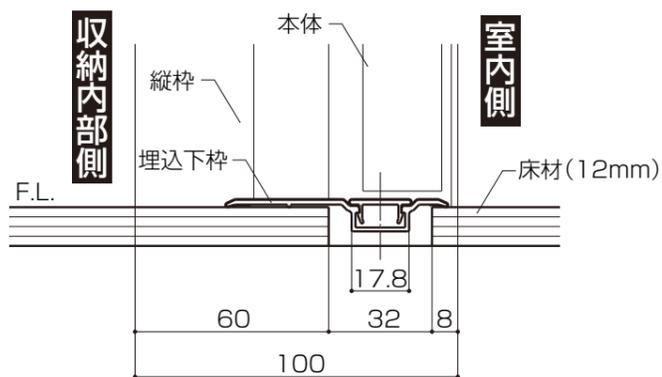
- ① 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は右図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。



### 2 床張り位置(床の張込み)

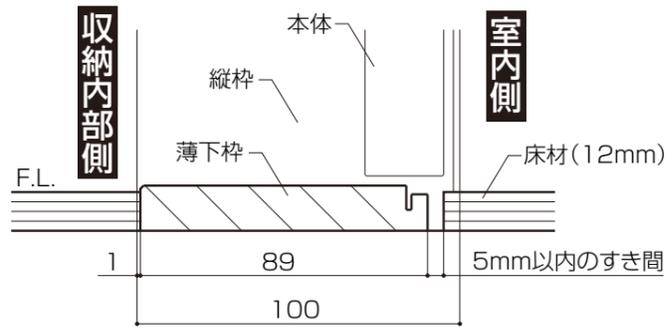
#### 【埋込下枠を使用する場合】

- 下図の位置に 32 mm (最小開口 25 mm) あけて床材を張ってください。



#### 【つば付き薄下枠を使用する場合】

- 枠の取付け後、下図のように床材を張ってください。



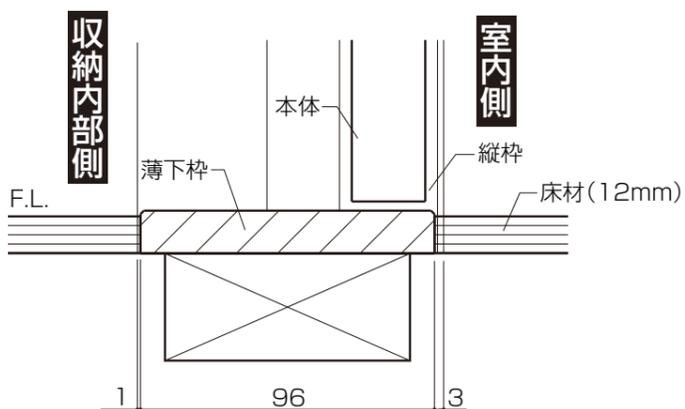
お願い

※床材は必ず図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

お願い

※床材と薄下枠のすき間は 5mm 以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあげないでください。

#### 【つばなし薄下枠を使用する場合】

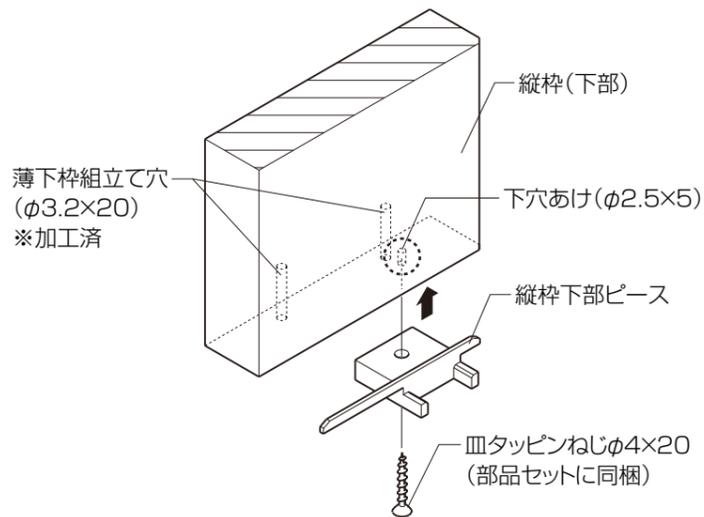


## ■取付け詳細

### ■枠の組立て

#### 【埋込下枠を使用する場合】

- 縦枠に縦枠下部ピースをねじ(皿タッピンねじφ4×20)で固定します。縦枠に下穴(φ2.5×5)をあけるときは、取付け説明書に載せてある型紙を使用して位置出しをすると簡単にあけることができます。
- ※すでに加工されている薄下枠組立て穴(φ3.2×20)とは異なりますので、ご注意ください。

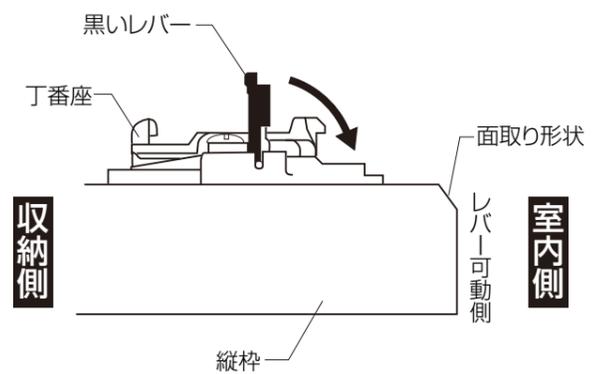
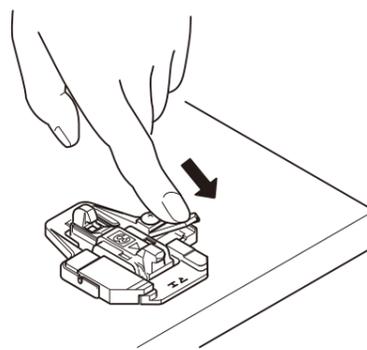
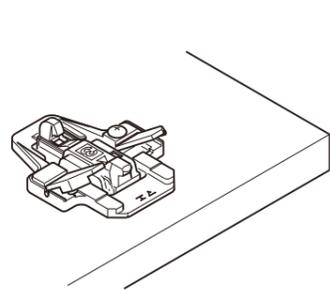
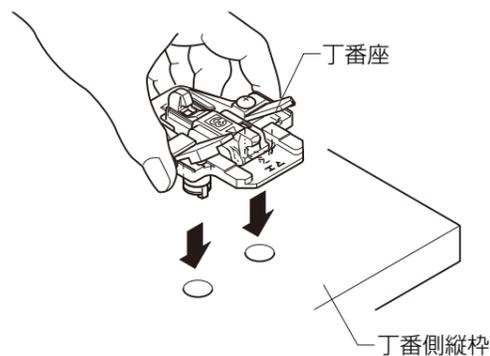


- ①丁番側縦枠に丁番座を取付けます。縦枠に丁番座を差込みます。

丁番座と縦枠の間にすき間がないことを確認してください。

黒いレバーをおろして丁番座を固定します。

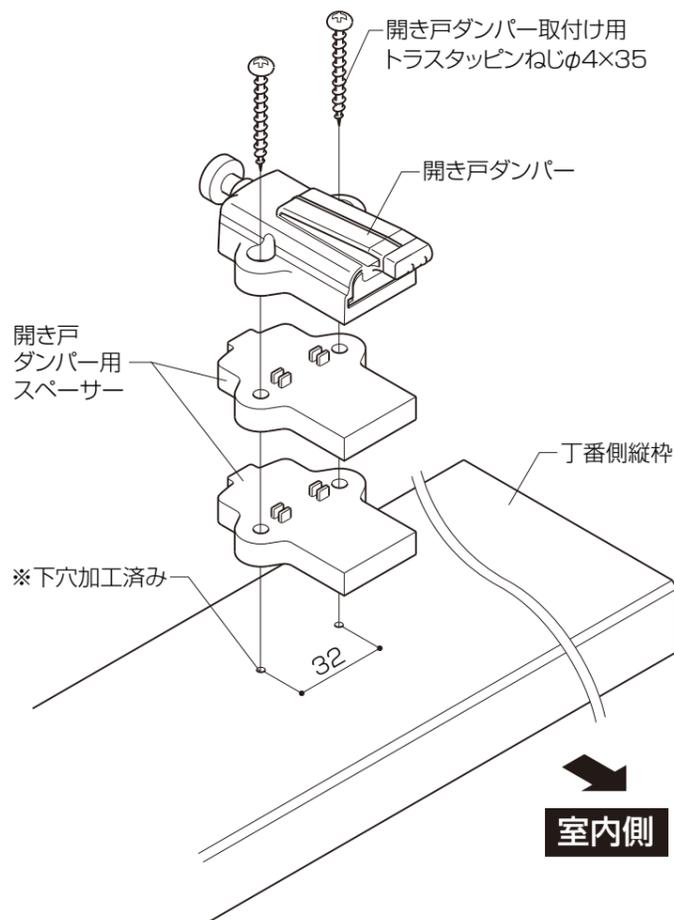
※丁番座の向きは下図を参照し間違いのないようにしてください。



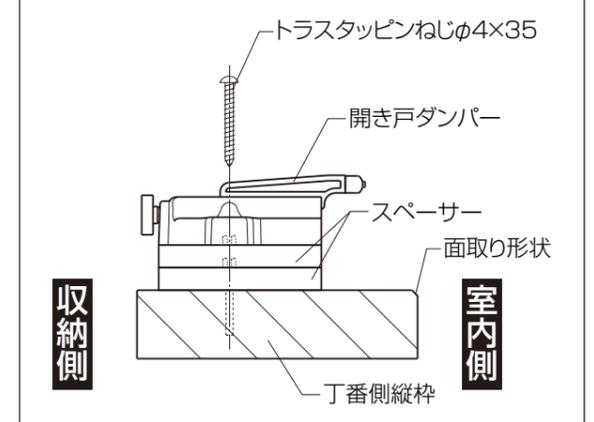
- ②丁番側縦枠に開き戸ダンパーおよびスペーサーを取付けます。(※下穴加工済み)開き戸ダンパー1個につきスペーサー2個を重ねて、同梱のねじ(トラスタッピンねじφ4×35)で縦枠に固定します。

#### お願い

※開き戸ダンパーの取付けには、電動ドライバーを使用しないでください。ダンパーが変形し、作動不良を起こす可能性があります。

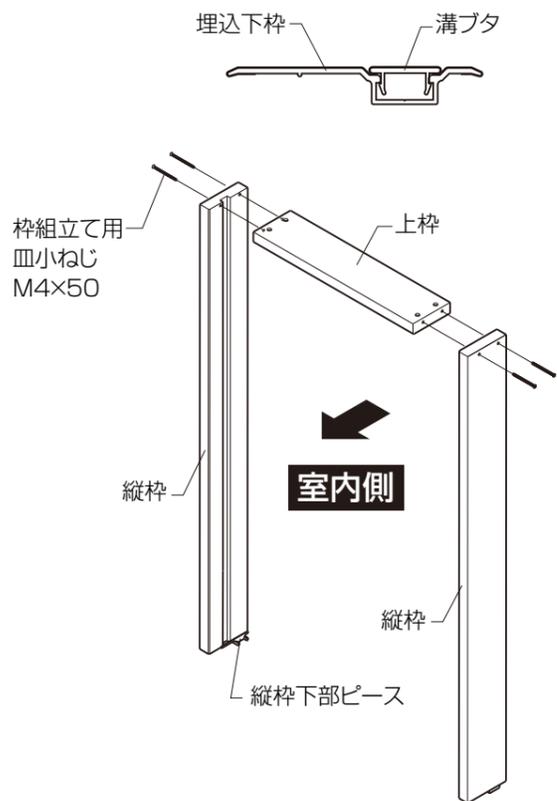


※開き戸ダンパーおよびスペーサーの向きは、下図を参照し間違いのないようにしてください。

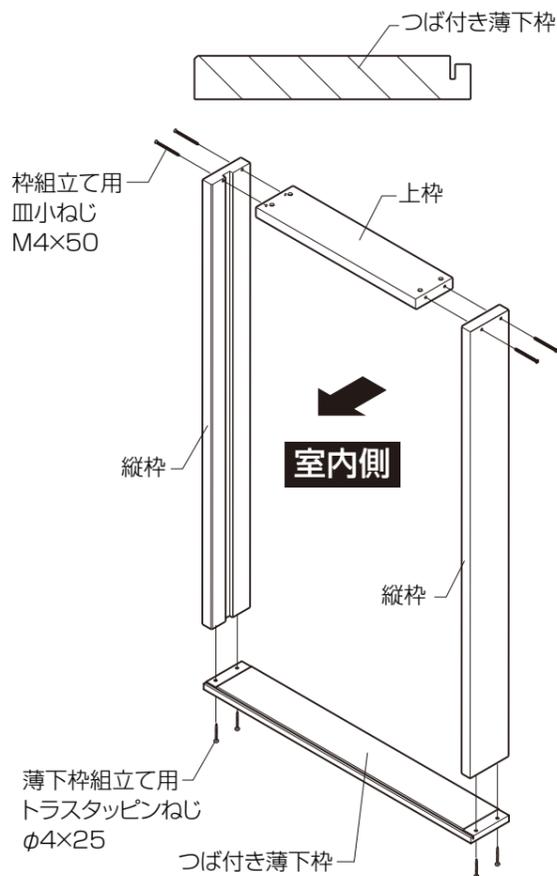


③右図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。

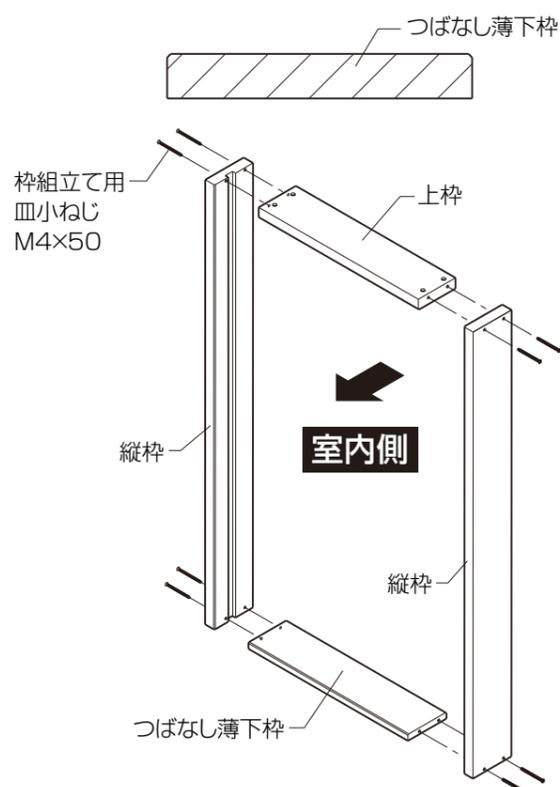
【埋込下枠を使用する場合】



【つば付き薄下枠を使用する場合】

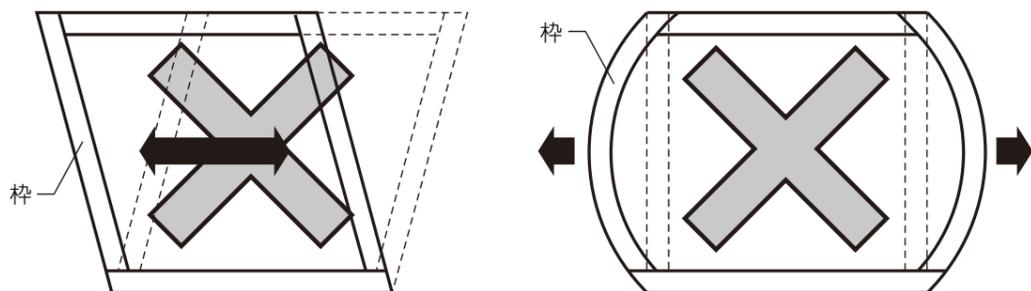


【つばなし薄下枠を使用する場合】



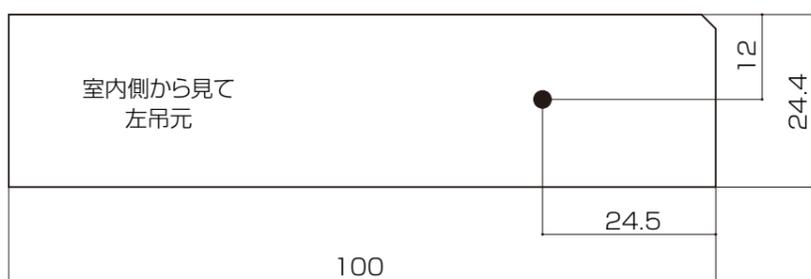
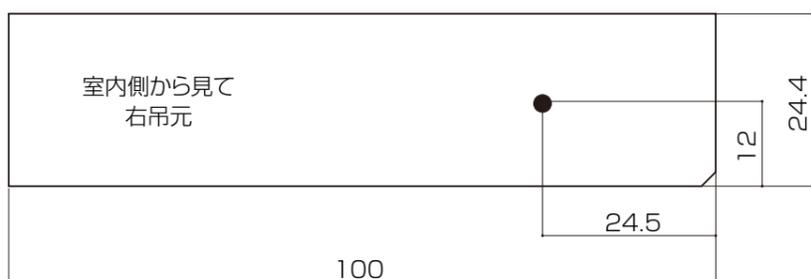
枠組立て上のお願

- ※ガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力の低下などの原因となります。
- ※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。
- ※ツバ無しの薄下枠の場合、縦枠の上下方向を確認し、枠を組んでください。

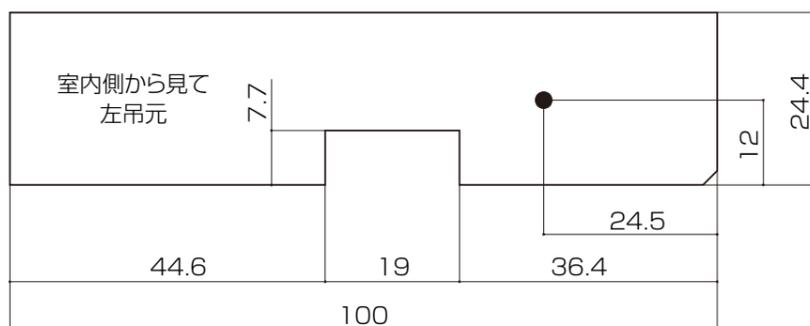
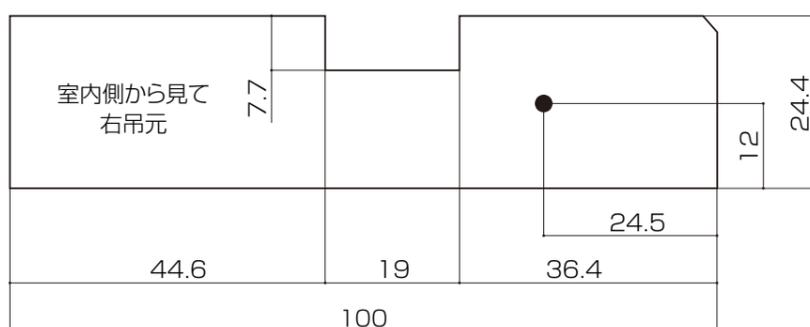


■縦枠下部ピース取付け穴加工用型紙

●丁番側縦枠(下穴φ2.5×5)



●戸当たり部材取付け側縦枠(下穴φ2.5×5)



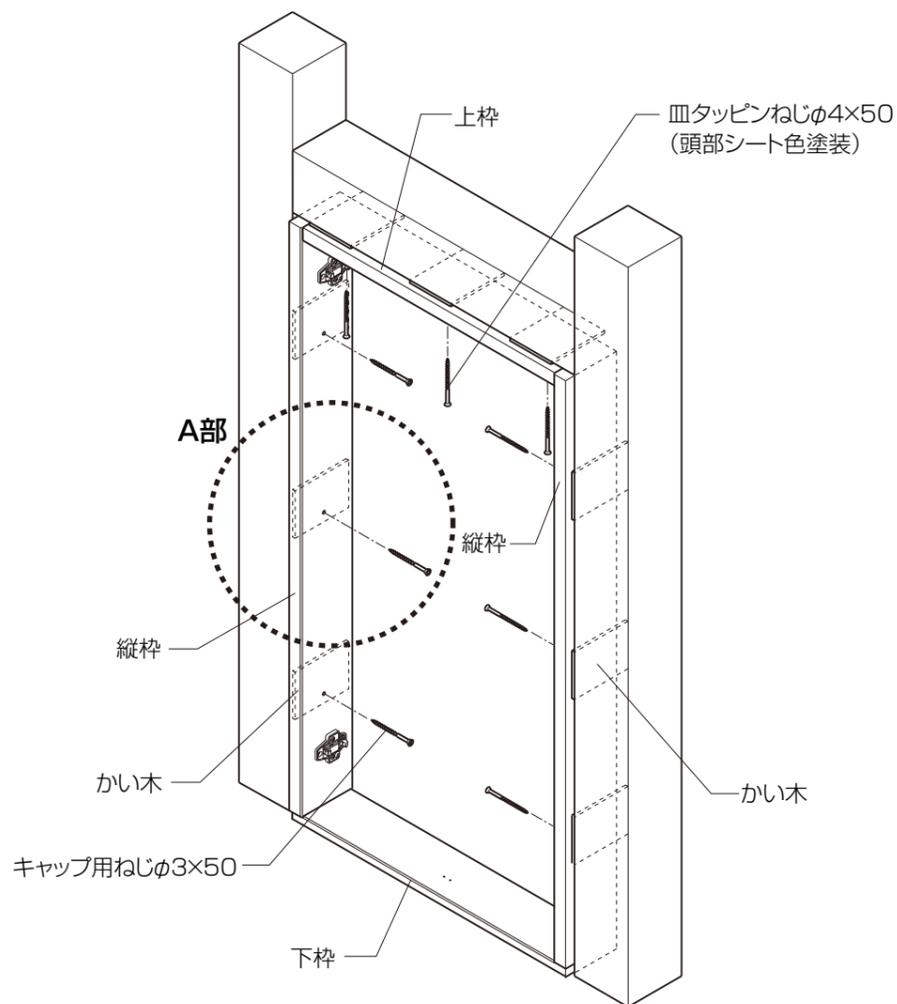
## ■ 枠の取付け(つば付き・つばなし薄下枠共通)

- ①組立てた枠を開口に取付けます。
  - ②取付けねじと同じピッチになるようにかい木をいれます。
  - ③枠の水平・垂直を必ず確認してください。(開閉不具合の原因になります。)
  - ④同梱のねじで固定してください。
- ※縦枠：キャップ用ねじφ3×50  
 ※上枠：皿タッピンねじφ4×50(頭部シート色塗装)

**お願い**

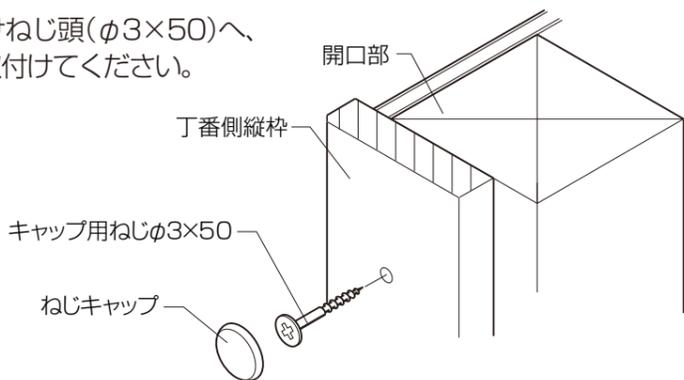
※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。

※必ず枠の垂直を確認してください。縦枠がたいこ状(又はつづみ状)で取付けられていると、開き戸ダンパーと本体が開閉時に干渉するおそれがあります。



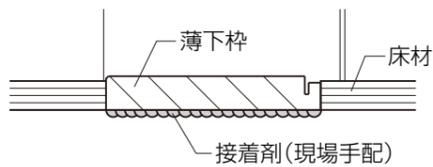
## ■ ねじキャップの取付け【A部詳細図】

- 丁番側枠の取付けねじ頭(φ3×50)へ、ねじキャップを取付けてください。

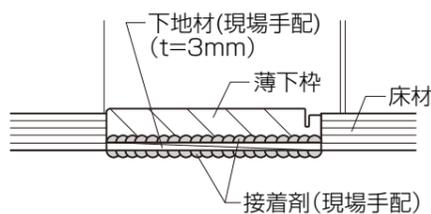


## 【薄下枠の場合】

- 床材厚さ 12mm
- ※必ず薄下枠に接着剤を付け、躯体に固定してください。

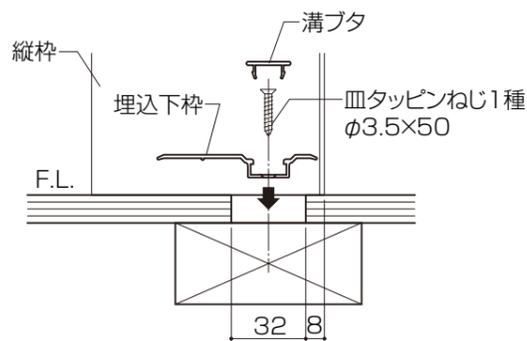


- 床材厚さ 15mm
- ※必ず薄下枠と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



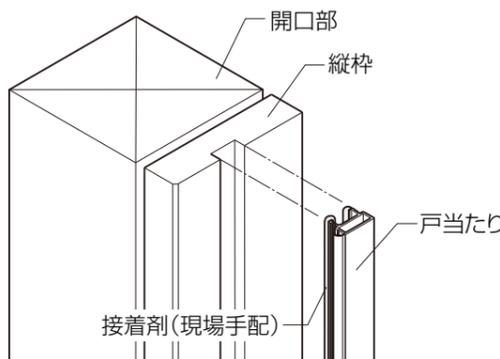
## 【埋込下枠の場合】

- 埋込下枠を縦枠下部ピースにはめ込み、縦枠室内側端部から3mmの位置にねじ止めし、溝ブタをはめ込みます。



## ■ 戸当りの取付け

- 戸当りに接着剤(現場手配)を付けて溝をふさぎます。
- ※戸当りが長い場合は、無理に入れずに必要量を切詰めてください。
- ※戸当りの接着は、必ず枠の建付け完了後に行うようにしてください。

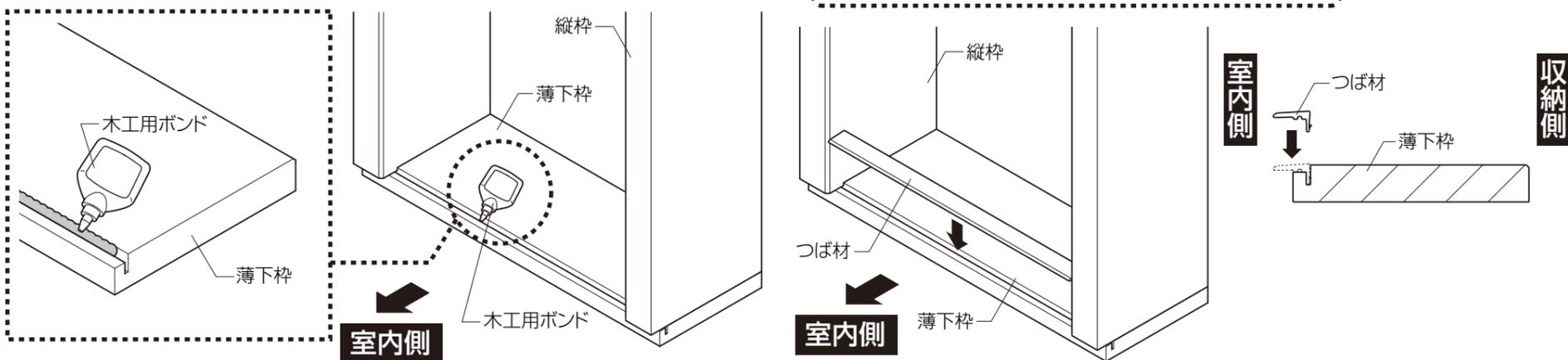


## ■ つば材の取付け(つば付き薄下枠を使用する場合のみ)

- ①現場でつば材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②薄下枠の溝に木工用ボンド(現場手配)をつけてください。
- ③つば材を溝に手ではめこんでください。

**お願い**

※ハンマーなどで強くたたき込まないでください。

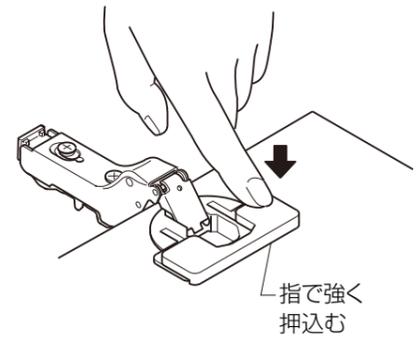
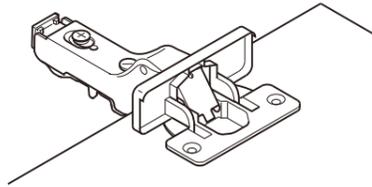
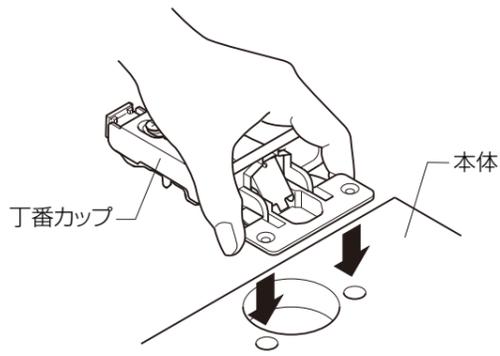


### 3 本体の吊込み

①本体に丁番カップを取付けます。

丁番カップのカバーを 90° に開いて、本体の丁番カップ取付け穴に丁番カップを差込んでください。  
※ワンタッチ式ですので、ねじ止めは不要です。

本体と丁番カップにすき間がないことを確認したら「パチッ」というまで強く押し込んでください。



②本体の左右勝手の確認

●本体の下端より上下把手穴中心までの寸法が 917mm になります。

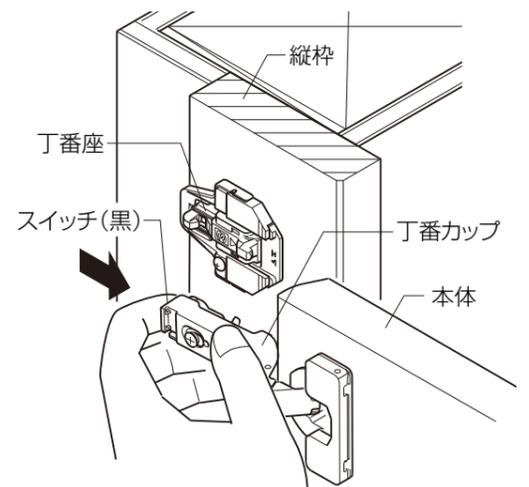
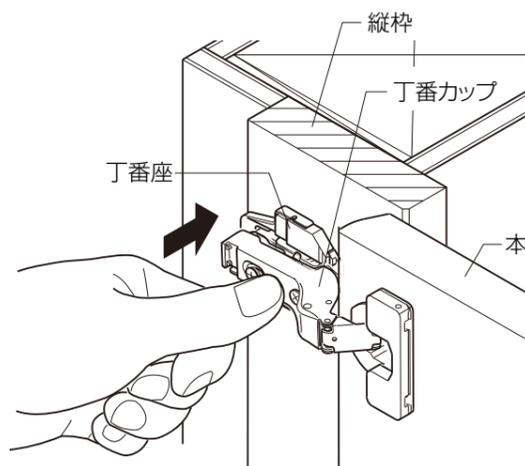
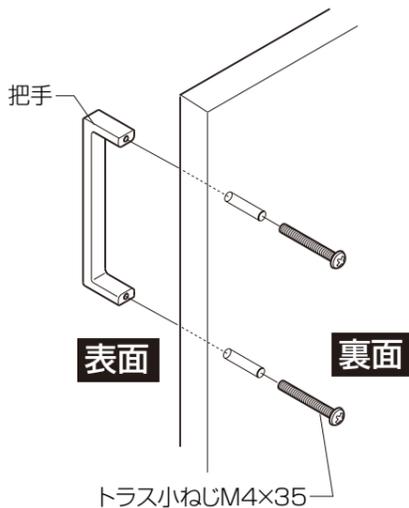
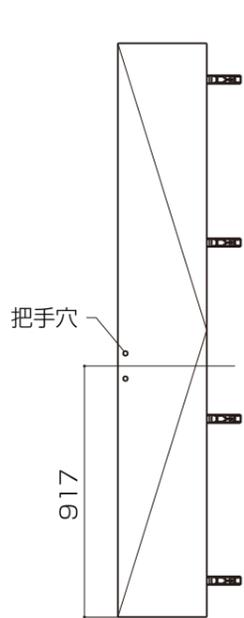
③把手の取付け

※把手セットは本体に同梱されています。

④本体の吊込み条件

●本体の丁番カップを縦枠の丁番座にセットし、上から押し込むだけで簡単にセットできます。

●取外す場合は、先端のスイッチ(黒色)を押し込むと外れます。



#### ▲ 注意

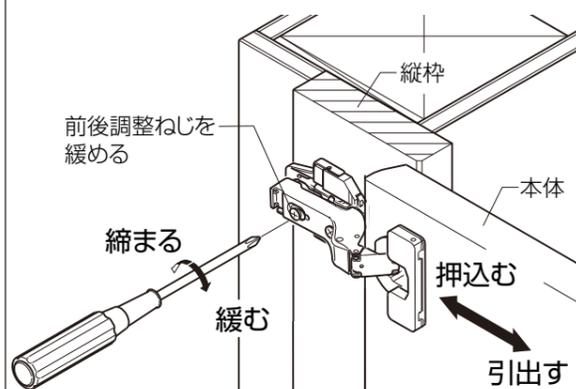
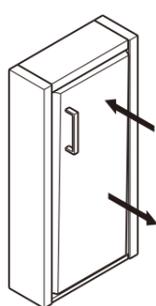
●本体の吊込みを行う場合は、本体の丁番カップが縦枠の丁番座に「カチャッ」と音がするまではめ込んでください。本体の脱落の原因となります。

※ 0420,0720 (4枚吊り)の場合、最初に中間の丁番を取付けてから、端部の丁番を取付けてください。  
※ 本体を支えている手を離す場合は、必ず丁番を2個以上取付けてからにしてください。

### 4 本体の建付け調整

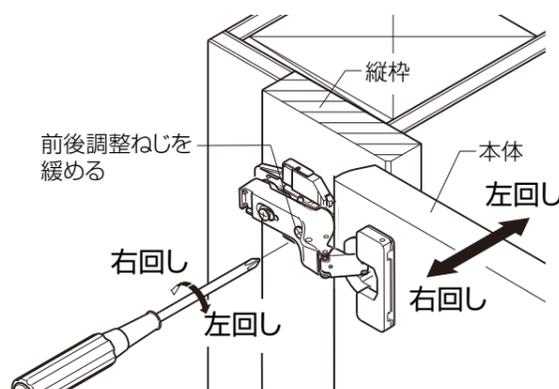
#### 〔本体の前後調整〕

●調整範囲  
前方向4mm  
後方向0mm  
(合計4mm)



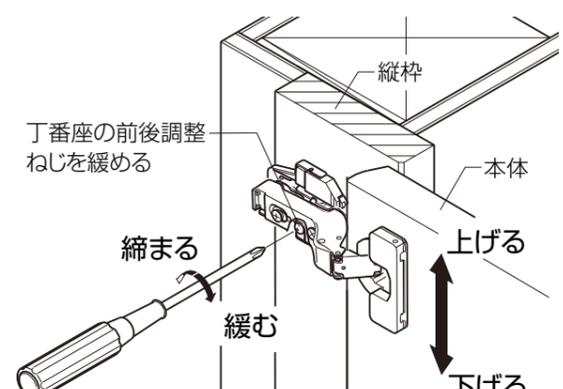
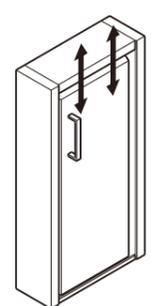
#### 〔本体の左右調整〕

●調整範囲  
(合計±2mm)



#### 〔本体の上下調整〕

●調整範囲  
(合計±1.5mm)



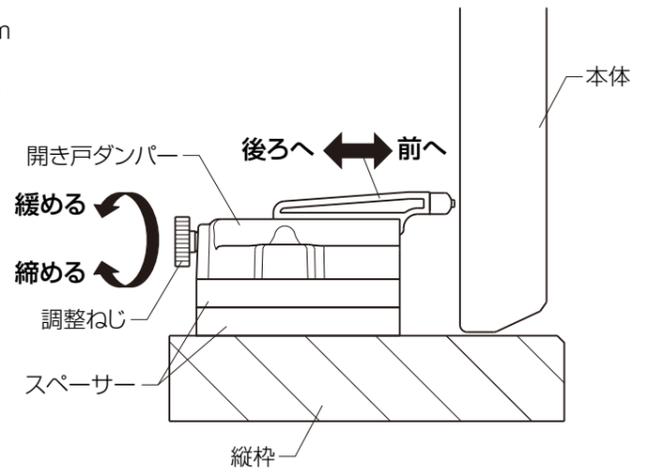
## 5 開き戸ダンパーの調整

- ※開き戸ダンパーの調整は、本体が閉まりきらない場合に実施してください。  
(閉まりきらない場合、ダンパーを後へ調整します。)
- 開き戸ダンパー後部の調整ねじを手でまわし、調整してください。
- ※調整ねじを締めると前へ、緩めると後へ動きます。

●お願い●

- ※開き戸ダンパーを前に移動しすぎると、本体が閉まりきらなくなることがありますのでご注意ください。
- ※調整ねじは必ず手でまわしてください。又、緩める方向に範囲をこえて、無理に調整ねじをまわさないでください。調整ねじが破損するおそれがあります。

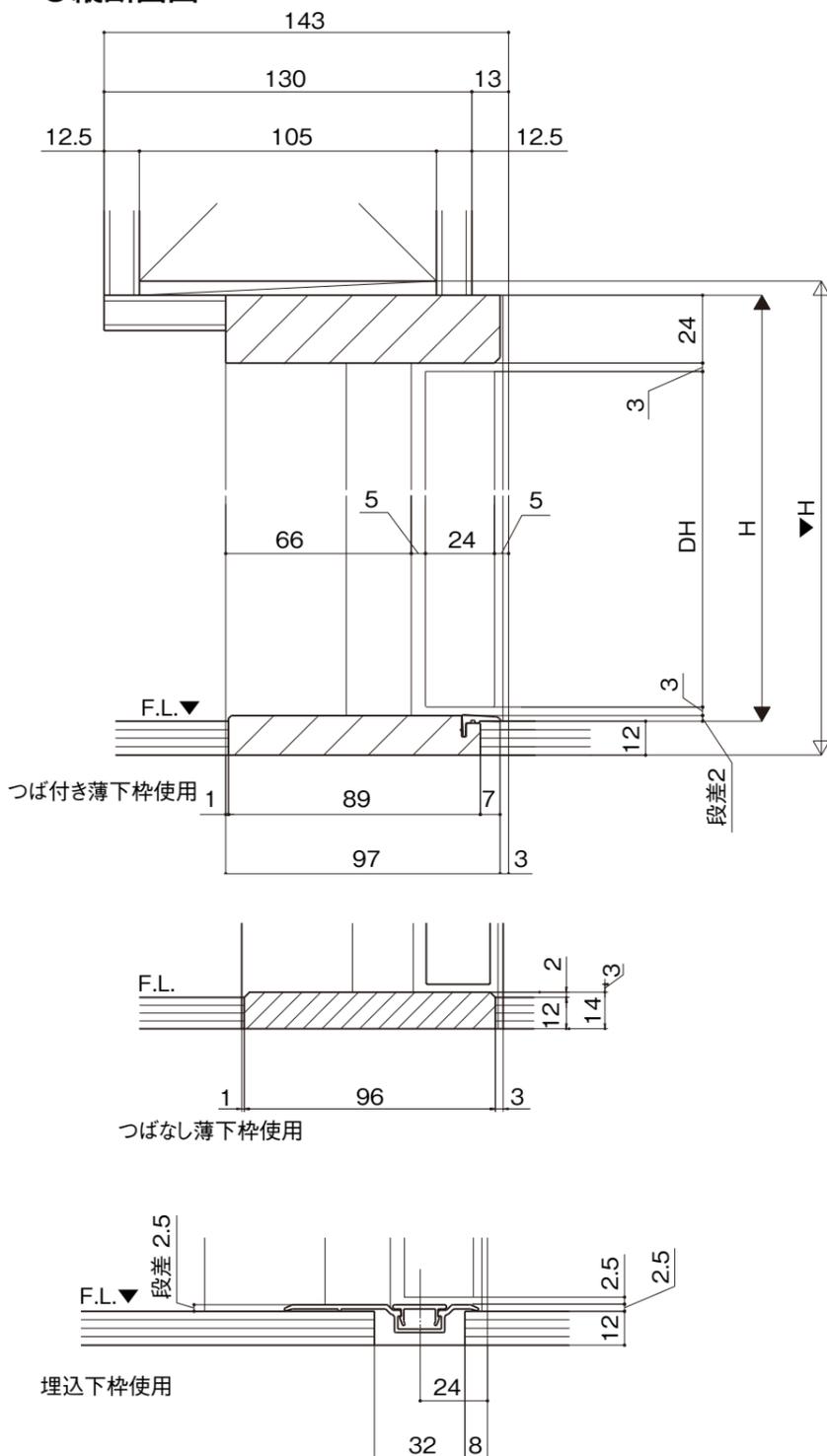
- 調整範囲  
前方向1.5mm  
後方向2mm  
(合計3.5mm)



## ■納まり図

### ■クローゼット開き戸ユニット(片開き) ノンケーシング

#### ●縦断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法
W04(437.5)	336.5
W07(780)	679.5

#### ■片開き戸

基本寸法(mm)	W呼称	04	07
	W(DW)	437.5(385.5)	780(728)

基本寸法(mm)	H呼称	20
	H(DH)	2023(1991)

#### ●横断面図

